

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

令和4年度 冬季企画展

昔の暮らし～映・屋・灯～

12月～3月 冬季イベント記録

おもちつきから

まちあるきまで

3年ぶり、旧家で落語の会



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十七)」



# イベント案内

旧家で芸能・伝統文化～錦影絵プロジェクト～

## 講演

幻燈師が魅せる  
日本アニメの源流“錦影絵”。  
その技術や歴史・文化を知る。

旧家で親む伝統芸能  
“錦影絵”の世界



復元された幻燈機  
(通称“風呂”)

動きを演出する種板  
(スライド)

## 旧家で親む伝統芸能 “錦影絵”の世界

にしき かげ え

講師・池田光憲氏(絵影師・池田組)

令和5年 6月10日(土) 14時～15時30分予定

◎定員40名 ◎参加費(資料代)500円 ◎対象・小学4年生以上 ◎会場・旧植田家住宅

◆お問合せ・お申込み◆ 5/3(水)～受付開始  
電話・FAX・メールまたは施設窓口にて受付。メールの場合は件名を「6/10錦影絵 講演」として「氏名・年齢・住所・電話番号」を明記の上、お申込みください。

### 旧家で“錦影絵”プロジェクト、始動!

◆幻燈師やってみひん? 期間: 6月～11月(毎月2回程度予定、11月上葉)

江戸時代・大阪発祥の伝統芸能「錦影絵」を知って・学んで、「幻燈師」になって演じてみませんか?  
このプロジェクトでは「錦影絵池田組」の指導のもと、練習を経て、錦影絵演目の上演を目指します。  
◎定員:10名 ◎対象:小学4年生以上 ◎参加費:3,000円(全期間、教材費込み) ◎詳細はお問い合わせください。



八尾市指定文化財  
**安中新田会所跡 旧植田家住宅**

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL 072-992-5311 info@kyu-uedakejyaku.jp



## 展示のご案内

■ 春季企画展「植田家の(照明じゃなく)“証明”」4/29(祝・土)～7/3(月)

旧植田家にのこる判子(印鑑)や証文など「証明」のための道具や文書類を中心に展示します。

※休館日はP15をご覧ください

# Contents

- 4 令和4年度 冬季企画展  
昔の暮らし～映・屋・灯～
- 6 令和4年度冬季企画展 関連講座  
「昔のあかり、明るさ比べ」
- 7 12月  
おもちつきと昔の暮らし体験～冬編～
- 8 1月～3月 冬季イベント記録  
暖家支援&石臼珈琲と古民家まちあるき
- 10 3年ぶり、旧家で落語の会
- 11 日日植田家住宅 第10日：裏ひな祭り(覚書)
- 12 四会所だより(33) ～加賀屋新田会所～
- 13 植ちよピ(ギャラリー展、新年・ひな祭り、手習い所)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十七)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真



展示室隣にて  
バックナンバー  
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### 映写機 (アロー社製)

昭和初期の日本で家庭用に販売されたアロー社製の16ミリフィルム映写機。旧植田家には9.5ミリや16ミリのフィルムが現存する。令和4年度冬季企画展「昔の暮らし～映・屋・灯～」は4・5頁で紹介。



令和4年度 冬季企画展

旧植田家  
住宅的

# 昔のくらし

## ～映・屋・灯～



えい

映写  
映像  
投影



やあ

屋根  
火屋  
屋外



と お

灯火  
点灯  
灯り



明治～昭和のくらしを映す・灯す昔の道具を  
みつけよう！



←目録はこちら

※展示と空手は一切関係ありません。

令和4年(2022)

令和5年(2023)

12/10(土)～3/13(月)



令和4年度 冬季企画展

## 昔のくらし ～映・屋・灯～

江戸から昭和の終わりごろ(約250年)30年ほど前)まで、実際に植田家が生活していた旧植田家住宅には、各時代を映し出す昔の道具が多くのかざされている。今回の企画展では、「灯り(照明)」をテーマに、くらしを豊かにしてきた火や光・電気を使う道具を小学三年生の「昔のくらし」の単元と併せて展示を行なった。

現代はスマホ1台で手紙(メール)や電話も買物もでき、映像(動画)や音楽、読書も楽しむことができる。また明かり(ライト)としても使え、とても便利な機械であるが、それは現代までに在った様々な道具の進化の結果だといえる。今では不便と思われる昔の道具から、くらしの移り変わりや当時の人々の想いなどを発見したい。

### 【映(えい)の道具】

映写機、フィルム、カメラ(撮影機)、モノクロテレビなど映写に関する道具を展示。いわゆるアナログな当時の記録媒体の変遷や、情報・娯楽の一部として重宝されてき



提灯・灯籠など屋外で使われた灯り



写す道具:スターカメラ、ガラス乾板~フィルム



※反転した像が映る

ピンホールカメラ

# 屋



ランタンと吊りランプの部品 (火屋ほか)

「展示解説の日」では、展示室の壁面に16ミリフィルムの映像を投影。



# 映



レトロなランプシェード



火打石・油など灯火道具

手動式懐中電灯  
通称“ほたる”



持ち運びに便利な懐提灯

# 灯



室内用下向きガス灯



ちょっと昔の照明器具と電球

【展示解説の日(植田家に残る映像)】  
令和5年1月9日(祝・月)、「展示解説の日」を実施。展示ケースの中だけでは分からない道具の仕組や調査内容、収蔵状況などを解説した。また展示室の壁面にデジタル化された「植田家に残るフィルム」の映像を投影し、その内容や当時の植田家の様子を参加者らと共有した。

(学芸員 安藤亮)

【灯(とお)の道具】  
火は昔から食と住には欠かせず、くらしを支えてきた。利便性の向上とともに電気がそれに代わるまでのくらしの様子が垣間見られた。

【屋(やあ)の道具】  
灯りが使われた場所や場面に応じて道具の形や機能も進化してきた。ここでは「屋外の灯り」と「室内(屋根の下)の灯り」とに分類し、灯籠、提灯、照明器具類を紹介した。

た当時のくらしが分かる。手作りの(と思われる)ピンホールカメラの見せる反転した像が時代を象徴する。

令和4年度冬季企画展 関連 講座

# 昔のあかり、 明るさ比べ

灯明・ろうそく・ランプなど昔の灯りの明るさを  
比べてみよう！

◎ 令和5  
2023年2月11日(土・祝)



洋蠟燭(和蠟燭と比較)



灯明皿(灯芯と油)



ハリケーンランタン



卓上ランプ



障子の枠を置き、行灯の光を疑似的に再現

## 企画展関連講座 昔のあかり、明るさ比べ

2月11日(土・祝)は冬季企画展「昔のくらし〜映・屋・灯〜」の関連講座として「昔のあかり、明るさ比べ」と題した体験講座を実施。講座では初めにスライドを使って展示の話を行ない、「昔のくらしとあかり」の関連性、歴史・種類・灯火へと話を進めました。灯明や蠟燭など火を使う灯りは、現代のくらしの中ではほとんど見られません。そのため明るさを実感する機会もないことから、今回は実際に火を灯して明るさを比べる実験を行いました。

用意したのは陶器の皿に灯芯(とうしん)と綿実油を入れた灯明皿、和蠟燭(ハゼの実)と洋蠟燭(パラフィン)、石油(灯油)ランプのハリケーンランタンと卓上ランプ。それぞれ無料アプリの照度計を使い明るさ(ルクス)の比較をした他、実際に文字が読めるのかを試してみました。結果、やはり灯明の灯りで文字は読み難く、明るさが5倍も違う蠟燭の灯りでようやく細かな字が読めました。また障子枠を光源の前に置き疑似的に行灯(あんどん)の灯りを再現したり、温かい石油ランプの灯りと現代のLEDランプとの違いも実感することができました。部屋は暗くても明るく楽しい講座となりました。(学芸員)

12月



2022.12.17蒸籠でもち米を蒸す

# おもちつきと 昔のくらし体験

## く冬編く



2022.12.24~床の間の正月飾り

### ◎おもちつきの日会&ミニ鏡餅作り

前回のスタッフだらけの「おもちつき大会」から一年が経過。2022年は少しでも参加者を集めようと、いつものおもちつきに加え「作って飾ろうミニ鏡餅」を企画しました。これまではお正月に床の間で飾るための鏡餅だけを作っていました。コロナ禍で試食を中止している現在、参加者にも小さな鏡餅を作ってもらい、座敷で飾って撮影して持ち帰ってもらえるようにしました。

思い付きの企画でしたが予約も直ぐに定員となり、参加者は自分たちでお餅をついて丸めてそれを鏡餅に仕上げていく過程を楽しみました。またスタッフお手製のミニ鏡餅持ち帰り用新聞エコバッグも好評でした。本企画は今年も開催を予定しています。ぜひご参加ください。



写真上/おもちをつく子ども達  
下・右/もち丸め中 同左/完成

### ◎昔のくらし体験く冬編く

今や昔の道具となった「電気こたつ」に入ったり、昔の暖房器具「火鉢」を体験する「昔のくらし体験く冬編」を今回は年末の12月24日(土)に行ないました。去年は大勢で盛り上がりつつ本企画ですが、今年は3名の子どもたちと保護者の方が一緒に参加して下さいました。

いつものように講座室で座学をした後、昔の冬のくらし探しに向かいました。部屋がどこも寒かったり、コタツに捕まったり、さらに寒い外で井戸水に触れて意外に温かったりと五感が研ぎ澄まされます。また今回は火鉢に使う炭火を七輪で熾すという実験に近い体験も行い、煙の量に反比例し僅かに熾った炭火の暖かさを体感してもらいました。

残りの時間はお正月遊びとして和紙で簡単に作れる「ミニ凧」にも挑戦し、2022年最後のイベントが無事終了しました。(スタッフ)



写真上/「こたつ」に入る  
同中/七輪で炭を熾す  
同下/「火鉢」で暖まる?

# あつたか 旧家で暖家支援

1/8(日)~3/13(月)



## こたつで“暖らん”

&

## 3/5(日) 石臼珈琲体験



コタツからの景色(座敷)

### ◎旧家で暖家支援ーこたつで暖らん

「旧家で暖家支援」は、冬の寒い旧家を昔ながらの方法で少しでも暖かく楽しく過ごしてもらおうと支援する企画で、夏の「冷やし旧家」の冬版と位置付けています。具体的には座敷に設置した電気コタツに入って将棋や囲碁、オセロなどのボードゲームや百人一首、トランプなどのカードゲームのほか、昔の盤遊び(テーブルゲーム)が楽しめたり、火鉢体験や石臼珈琲体験などのイベントもこの期間中に行なっています。コロナ禍前はココアや珈琲などの温かい飲料の販売も行なっていました。さて今日も宿題をしたりおしゃべりをしに近所の小学生たちが遊びにきています。



コタツで遊ぶ子どもたち

### ◎やっぱり石臼珈琲体験

昨年はコロナの“まん防”延長により中止となった「石臼珈琲体験」。やっぱり1年に1回はやらないと忘れてしまうため、今年も2月に事業体験交流会(植田家だより50・51号)参照を兼ねて練習を行ない、3月5日(日)に無事開催できました。



石臼で珈琲豆を挽く参加者



珈琲の歴史や種類について学ぶ



最後は火鉢でほっこり



珈琲豆の選定(ダメ豆取り)も体験

イベントそのものは2年ぶりになりますが、毎年の練習の成果もあり、素早い炭火熾しとスムーズな進行、的確なアドバイスで参加者も安心して作業に取り組みました。また今回は珈琲に関心の高い方が多く、熱心に話を聞いたり、珈琲愛を熱く語って下さる方もいました。最後は火鉢を囲み「やっぱり良いねえ」とほっこり。ところで珈琲が飲めるまでにはやっぱり2時間かかりました。

1~3月

河内の古民家巡りNW関連企画

# こ ん ん が ぶらり古民家

## 街道まちあるき



今ものこる八尾木常夜灯



旧植田家住宅～寺社～墓地～旧跡～公園  
～公共施設～碑～恩智街道～茶吉庵



2023年 3月21日 祝 火



◎ぶらり古民家街道まちあるき

旧植田家住宅～茶吉庵 コース

今年度最後のイベントは河内の古民家巡りネットワーク関連企画として、旧植田家住宅から茶吉庵(萩原家住宅)まで八尾の古民家を訪ねる「ぶらり古民家街道まちあるき」を開催しました。今回は新たに旧大和川や街道沿いのルートを開拓し、周辺にある寺社や墓地、旧跡、公園、公共施設などにも立ち寄りしました。

正午前、予定通り目的地に到着すると、茶吉庵19代目ご当主の萩原浩司さんに建物を詳しく案内してもらいました。その後、現地解散し、希望者は事前に予約していたランチを頂きました。現地でのランチが終わると、駅まで30分程歩き、これにて無事まちあるきが終了しました。

(旧植田家住宅スタッフ)



案内役はマップ師・北村茂章さん



公園・堤跡の公園・墓地・墓地…



茶吉庵に到着(萩原さんお出迎え)



古い絵馬のあるお堂(名称不明)



「つくりもの」でお馴染みの八尾木



ご当主の萩原さんによる解説



新田会所跡に隣接する柏村稻荷神社



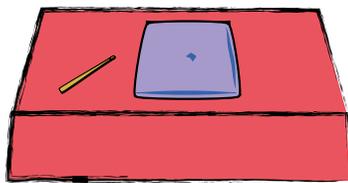
浄土真宗本願寺派の寺院・善立寺



旧家で芸能・伝統文化

# 落語の会

よっ、3年ぶり〜！



令和5年  
2月18日(土)

天神亭蝶九「寝床」



末廣亭文々「明石飛脚」



天満屋芝楽「雁風呂」



天神亭岩塩「崇徳院」



## 3年ぶり、旧家で落語の会

お待たせしました、「旧家で芸能・伝統文化」落語の会」の開催は実に3年ぶりとなりました。これまでは毎年2月の恒例行事の一つのようでしたが、コロナ禍で中止が続ぎ、昨年もまん延防止等重点措置により直前で中止となってしまいました。

そんな「旧家で落語の会」ですが、今回は定員を減らしましたが、事前の問い合わせも多く、2月18日(土)までには満員御礼となり当日を迎えました。いつもの「素人寄席・天満天神の会」の方々にご出演いただき、初参加の1名を含む4名の方々がそれぞれ持ちネタを披露しました。

今回の出演者と演目は次の通りです。  
(出演順、敬称略) 末廣亭文々「明石飛脚」、天神亭岩塩「崇徳院」、天神亭蝶九「寝床」、天満屋芝楽「雁風呂」。コロナも少し落ち着き、会場はマスクの着用をお願いしていましたが、笑顔が分かるほど笑いと温かさにも包まれていました。途中休憩を挟んでの約2時間、久しぶりのイベントに3年分の時間があつという間に埋まったような感覚でした。

(スタッフ)

雑記帳  
**日植田家住宅**  
 - 日常から日用まで -

第10日:裏ひな祭り(覚書)

lvstiv9f z'lll Dolls Festival



【植田家のお雛さん、実は・・・】

毎年2月～3月「旧家で記念撮影～ひな祭り～」に座敷で展示している7段飾りの豪華なお雛さん。実は元々ここにあったものではなく、今から13年前に本紙(Vol.04)で募集し、譲り受けたものです。ただ全く縁のないものではなく、近所に住む植田家の遠い親戚の方から戴きました。その様な訳でイベントには欠かせない存在となり、毎年来館者の方々を楽しませています。

【年にひとつのひな修理】

こうして植田家によって来たお雛さん。昭和の時代のものでしょうか、とても大事にされ、道具もほぼ揃っています。ただ経年劣化や欠けている物もあり、毎年ひとつずつ何かしらものをスタッフが修理したり手作りして楽しんでいます。

(ツイッターやブログで随時公開中)

【修理の軌跡】



男雛の冠の  
 纒(えい)部分



三人官女の  
 三方(さんぼう)



五人囃子の  
 笛

【お雛さん、覚書】

さて、お雛さんといえば準備が大変な上、すぐに仕舞うため、近頃は手軽な雛飾りだけにしたり、そもそも飾らない家も増えています。そこで来年に備え旧植田家住宅版のお雛さんのメモを残しておきたいと思えます。ぜひ参考にしてください。

◎上から一段目：男女一対の内裏ひな

内裏とは天皇の住居のこと。向かって左に男雛、右に女雛が一般的な並び。関西式(京式、古式)はその逆。

◎上から二段目：三人官女

お内裏様の世話をする宮仕えの女官。真ん中の座り雛は三方、向かって右の官女は長柄、左の官女は搦手を持つ。

◎上から三段目：五人囃子

能のお囃子を奏でる若い楽人。左から太鼓・大皮鼓・小鼓・笛、扇(謡い)の順に配置(↓音の大きき順に並ぶ)。

◎上から四段目：隨身(いわゆる左大臣・右大臣)

向かって右が左大臣(老人の姿)、左に右大臣(若者の姿)。それぞれ学問と知性、力を司る。

◎上から五段目：三任丁(三人上声)

京風では塵取を持つ仕丁(従者が真ん中、向かって左に熊手、右に箒を持たせ、それぞれ怒り、泣き、笑い顔をす。また両端の左に「右近の橋」、右に「左近の桜」を飾る。

◎上から六・七段目：嫁入り道具・御輿入れ道具

長持ち・鏡台・茶道具などの嫁入り道具、駕籠・重箱・牛車などの御輿入れ道具のミニチュアを各段に置く。

♪お内裏様(男雛)とお雛様(女雛)ではなく、ここにいる全員が「おひなさん」です。



みんな「お雛さん」。

# 四会所だより (33)

## 住之江のまち案内

### 〜加賀屋新田会所跡〜

私たち「住之江のまち案内ボランティアの会」は、加賀屋新田会所跡の案内を中心に据えて、住之江のまち案内をしています。

この会が誕生した二十年前は、新田会所の認知度は決して高いものではありませんでした。大阪市にただ一つ残る会所跡で、大阪市指定文化財になっているにもかかわらず。

歴代の会長は大変意欲的で、会所への熱い思いを持っていました。様々な取り組みを考え出し、十数年かけて整理し、今の活動形態を作り出してきました。

分かりやすく伝えるため、紙芝居を取り入れ、二〇一三年に最初の紙芝居「加賀屋甚兵衛物語」が完成しました。続いて「大和川物語」「釜口政吉と平林の埋め

立て」も作り、会所や地域の催しで紹介してきました。ただ紙芝居は多くの人が見るには画面が小さいという難点があり、またデジタル化の波も相まって、紙芝居に代わり、ビデオが制作されるようになっていきました。会所を紹介した動画「加賀屋新田会所跡案内」は、住之江区役所公式YouTubeチャンネル(Ⓢ user-ts9wc4ic6d)で公開しています。

今年三月十一日、加賀屋新田会所跡において、「かいしよえ会所会」が開催されました。四半ぶりという事もあって、区役所は区の広報紙で大きく取り上げ、その中で私たちのビデオも紹介されました。当日は鳳鳴亭(茶室)でビデオを上映し、会所の庭園と周辺の案内を行いました。

私たちは、会所以外の地域の催しに参加するときは、必ず「加賀屋新田会所」の紹介をしています。それは、ボランティア全員がこの会所を大切に考え、活動しているからです。

私たちを惹き付けるこの会所には、歴史の重みと、屋敷や庭園、そして茶室の持つ

魅力があります。また、その季節やその時刻が見せる美しさがあります。

そして何より、訪れる人を大切に迎え入れてくれる「茶の心」から来る心地よさがあるのだと思います。

(住之江のまち案内ボランティアの会 本原千代子)



ビデオ上映の様子(鳳鳴亭)



住之江区広報紙「さざんか」(3月)



コロナ禍で行なった出前寄席(住之江区民ホール)



茶室に至る路地の風景

加賀屋新田会所の書院で行なわれた会所寄席(コロナ禍前)



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

# 植ちよぴ。(ックス)

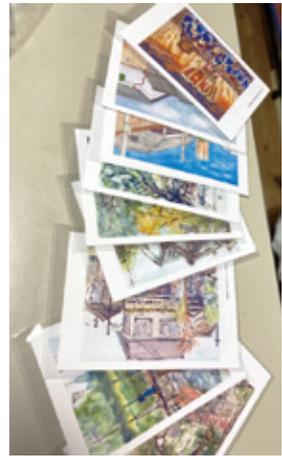
## ①「ギャラリー展示'22」と参加特典

2023年1月5日(木)～30日(月)

昨年11月に募集した「ギャラリー展示2022」の応募作品9点を新年明けの旧植田家住宅ギャラリーにて展示した。常連の方々をはじめ、初出展で大型作品を描かれた方もあり(ギャラリーが小スペースのためギリギリ展示)、今回もバラエティーに富んだ作品が並んだ。

ギャラリー展示では参加特典として、期間中の入館料が無料になる「参加証」と、自分の応募作品が印刷された「オリジナルポストカード」2枚を毎回発行している。記念品としても実用として

も喜ばれている(と思う)が、毎年参加してコレクションとして集めてみるのはいかが？



出展作品が印刷された参加特典のポストカード

## ②旧家で記念撮影♪新年・ひな祭り♪

新年2023年1月5日(木)～15日(日)  
ひな祭り2月23日(木)～3月21日(祝・火)

新年を迎えて最初の「旧家で記念撮影」は、毎年新成人を対象に無料で入館してもらえるようにしており、新年のお祝いの撮影もできるように座敷にはお正月飾りや各部屋に「旧植田家の正月」が味わえる設えを用意している。

一方で2月～3月は「ひな祭り」として、お雛さん(本紙11頁参照)を飾り、記念撮影が楽しめるようになってきている。昨年スタッフが試験的に作った「おひなさん変身セット」も今年は日を限定し本格的に稼働。子どもよりもむしろ大人の方が大喜びで衣装をまとい記念撮影に興じた。(写真はイメージです)



式台でお雛さんに変身

## ③今昔あそび体験「手習い所」を開催

2023年3月19日(日)

毎月第3日曜日の「むかし遊びの日」と「今昔遊び体験」を連動した「手習い所」を開催。昔遊びのベーゴマ、けん玉、お手玉、ビー玉、おはじきなどが時代とともに進化していることを新旧の道具を比較して学び、実際に遊んでもらった。次年度も継続し年一回のペースで実施を予定。

# マンジークン

安富士 暁

影絵



平たいガラス玉をはじく「昔」の遊び



ボトルキャップを飛ばす「今」の遊び

## 落穂拾い

## — 今東光の董風 — (四十七)

文・伊東健

二〇二一年に創刊百周年を迎えたばかりだった雑誌「週刊朝日」が、二〇二三年五月に休刊するニュースは衝撃的でした。同じく創刊百年を迎えている「文藝春秋」は現在、誌面で創業からの歴史を振り返るさまざまな企画を行っています。大正十二年に創刊された同誌は、わずか三十ページ足らずの小冊子であり、一部十銭で、当時のカレライス一杯程度の値段だったようです。

この小冊子に菊池寛を筆頭に、芥川龍之介、直木三十二(後に三十五)、川端康成、横光利一等、近代文学の代表作家たちが文章を寄せ、今東光もそこに名を連ねていました。

紙数の都合で創作ではなく、誰もが様に随筆や時事関連の文章を書いていて、文学や文芸という側面よりも、ジャーナリスティックな一面や評論といった側面が目立っているように感じます。

東光がこの記念すべき創刊号で発表した文章の題名は「放言曆」。後年、東光が毒舌

和尚と称されるようになる片鱗が既に現れている文章です。かいつまんで少し紹介します。

「先頃、天保の頃の国学者である正木千幹の『宇治拾遺物語標註』というのを見た。読んで感服しなかったから、余り偉い学者というのじゃあるまいと思つた」

「序だから響を引けば、文学博士藤井乙男氏の『江戸文学研究』なども、如上の意味で断々乎として推賞するに吝かなものである」

「武林無想庵に至つては、白昼公然と人妻への大胆なる告白を示し、正木千幹の如くに恐れ入らない。(中略)

ひるがえつて『結婚礼讃』を見る時に、大袈裟な身振りたつぶりの巨漢が、あさましや色男然として人の女房の紅裙に纏綿している」

(大正十二(一九二三年)一月一日発行)

「文藝春秋」創刊号より)

※旧字・旧かな及びルビは読みやすいように改めました

正木千幹は歴史上の学者であつたとして、藤井乙男も武林無想庵も、当時は現役バリバリの国文学者であり、作家でありました。東光は菊池寛が「創刊の辞」に書いた「私が知っている若い人達には、物が云いたくて、

ウツウツしている人が多い」というのに、ぴったりの作家だったといえるのでしょうか。

東光はそれまでに「新思潮」や「新潮」に小説や随筆を発表していましたが、中でも菊池寛は東光が「新潮」に発表していた「出目草紙」に注目していたといえます。付度なしの歯に衣着せぬ若き東光は、「放言曆」を次のように締めます。

此所に至つて読者よ。真眼をみひらいて分別し給え。而して拈香一炷心を静かにして思索の街頭に、吾、人ともに立とうではないか(前掲書より)

権威を恐れず思索せよと訴えかける東光の姿は、文藝春秋の創刊に燃えた菊池寛と重なるものがあつたのです。



「文藝春秋」創刊号(復刻版)の表紙

# 旧植田家住宅のご案内

【2023年5月～8月】

## これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2023年

◎3月17日(金)～4月24日(月)  
 通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

◎4月29日(祝・土)～7月3日(月)  
 春季企画展「植田家の(照明じゃなく)証明」  
 ★5/3(祝・水) 展示解説の日(ミニ講座)

コロナ感染拡大予防(3密回避・手指消毒など)にご協力をお願いします。

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### イベント

(詳しくはお問い合わせください)

- 5月 5日(祝・金) こどもの日企画「新聞兜を作ろう」10時～16時  
 6日(土) 畑活用計画「木綿の綿を育てよう!」※種の無料配布も実施  
 ★5/3(祝・水)～28(日) 旧家で記念撮影～こどもの日～
- 6月 10日(土) 講演「旧家で親しむ伝統芸能“錦影絵”の世界」  
 講師: 池田光恵氏(錦影絵池田組)
- 7月 29日(土) 子ども昔くらし体験～夏編～  
 ★7/1(土)～9/4(月) 納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」
- 8月 2日(水)・19日(土) 土蔵でクラフト  
 ★8/2(水)～9/4(月) 旧植田家Zoo(ずー)宅 2023  
 (開催未定) 夏のお茶会

※予定は変更する場合があります。



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

2023 / 5 May

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6 June

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7 July

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

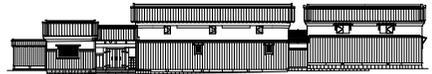
8 August

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

例年と違うのは、嘘みたいに作業が捗(はかど)り、締切り前に全部の仕事が片付きそうなくらいでしょうか。今日は年に一度うそをついても怒られない日だそうです。せっかくなのでちょっとだけ嘘をついてみました。まだまだ終わりません。

### #編集日記(4・1)

昨日まで年度末でしたが今日出勤すると新年度が始まりました。昨年度のまとめ、企画展の準備、本紙の作成などの作業に追われ、期待と不安を感じる間もなく焦りと余裕の間を漂う毎日。▽



### 【交通案内】



- ◇ JR 大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行 JR 八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)  
 ※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)  
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25  
 TEL/FAX: 072-992-5311  
 E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

